



第65回近代五種全日本選手権大会

令和7年9月27日(土)～28日(日)までの間、リソルの森(千葉県長生郡)において第65回近代五種全日本選手権大会が開催された。昨年からオブスタクル(障害物)種目が導入され今年で2回目の開催となる。今回初開催となるリソルの森は、2023年4月から近代五種の「ナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点」に指定されている施設で、スポーツ施設「メディカルトレーニングセンター」内にオブスタクル(障害物)が屋内に新設されている。自衛隊体育学校からはパリ五輪銀メダリストの佐藤大宗(さとうたいしゅう)3等海尉以下男子7名、女子6名の計13名が参加し、初日のフェンシングランキングラウンド、2日目のフェンシングダイレクトエリミネーション、オブスタクル、水泳そしてレーザーランの五種目を戦い抜いた。今大会はナショナルチーム選考を兼ねると同時に、11月に愛知県で開催されるアジア選手権大会の出場権を争う大会となった。

男子優勝の富田洋輔(とみたようすけ)1等陸士は、初日のフェンシングランキングラウンドを17位で終え2日目に繋げた。2日目のフェンシングダイレクトエリミネーションでは2回戦で敗退するも、その後のオブスタクル及び水泳で7位と追い上げ、最終種目のレーザーランは首位と31秒差の12番スタートとなった。正確な射撃と激走で首位との差を徐々に詰め、3回目の射撃終了時にトップに立つも2位の佐藤3尉と並んで最終4回目の射撃を迎えた。最終の射撃を素早く終えると一気に独走状態で首位に立ちそのままゴールテープを切り、自身初となる全日本のタイトルを獲得した。試合後富田1士は、「フェンシングで出遅れてしまったが、他の4種目をうまくまとめることができての優勝は素直に嬉しい。試行錯誤の毎日だったが、折れずに努力した結果が優勝として表れて安心した。全日本優勝は大きな目標であると同時に、一つの通過点。やっと世界で戦うスタートラインに立てたので、次の目標に向かって今まで以上に貪欲に頑張りたい。」と語ったその目はすでに世界に向けられていた。





**陸士長
矢野佑歩**

女子優勝の矢野佑歩（やのゆほ）陸士長は、初日のフェンシングランキングラウンドを10位で2日目を迎えた。2日目のフェンシングダイレクトエリミネーションでは11位、オブスタクルでは39秒台で6位につけると続く水泳が4位、最終種目のレーザーランを6番スタートで迎えた。先頭との差は59秒。徐々に順位を上げ、3回目の射撃で2位の内田3曹の背中を捉え、4回目の射撃終了時に遂にトップを走る内山和奏選手（早稲田実業中）を捉えほぼ同時に射撃エリアを出た二人は抜きつ抜かれつのデッドヒートを繰り広げたが、矢野士長が300mの折り返しを過ぎてからラストスパートをかけ完全に内山選手の前に出るとそのままゴールテープを切った。約1分の差をひっくり返して手にした全日本のタイトル。ゴール直後は倒れ込み、しばらくは動けない状態になるほどの激闘を制し、自身初の表彰台がセンターとなった矢野士長は試合後、「今年のはグッドコンディションで迎えることができ良いイメージで臨めた。フェンシングの結果は厳しかったが、一番苦手としていたオブスタクルでベストタイムを更新し気持ちが上がった。逆に一番得意としているレーザーランは途中苦しい場面もあったが、声援が大きな力になり最後まで諦めることなく今までで一番良い走りができた。表彰台に上がった時は嬉しい気持ちと感謝の気持ちでいっぱいだった。今後も感謝の気持ちを忘れずに自分自身としっかりと向き合い頑張る。」と大会を振り返った。また矢野士長は本年度において最も成長が著しい若手選手に贈られる「藤井賞」も受賞した。



女子第3位となった内田美咲（うちだみさき）3等陸曹は、フェンシングのランキングラウンドを7位で終え、翌日のダイレクトエリミネーションを6位、オブスタクルでは5位、得意の水泳で2分10秒を切る速さで2位となり、38秒差の5番手スタートでレーザーランを迎えた。3番から5番までの3人はほぼ同時スタートだったが、内田3曹は1回目の射撃を3位で開始するとほとんどノームスと言える速さで射撃を終え2位に浮上、迎えた4回目の射撃終了時に矢野士長に抜かれたが、そのまま先頭二人の背中を懸命に追いかけて3位でフィニッシュ。試合後内田3曹は、「今大会は調子が上がらない状態で不安が大きかったが、これまでやってきたことや経験を信じて臨んだ。結果は悔しいが自分が持っている力を出し切れた。この結果は皆さんの声援が力となって出せた結果であり、本当に感謝している。今後はオブスタクルに力を入れ国際大会で結果を出せるよう努力し続けたい。」と力強く語った。

第3位

3等陸曹

内田美咲



また、男子団体で体育学校B（菅沼2曹、藤田3曹、松原3曹）が2位の成績を取め、若手が活躍した今大会を振り返り、監督の富井慎一（とみいしんいち）1等陸尉は、「監督就任後初の全日本選手権大会であり、自身の目標であった全選手出場、男女優勝を達成することができ素晴らしい大会になった。これもスタッフの努力と体育学校挙げての応援のおかげであると感謝している。次の大きな目標である来年のアジア大会と全日本選手権に向けて更に強化するとともに、近代五種の発展普及に寄与していきたい。」と語った。今大会の成績と本年6月に実施されたランキング戦の成績により、男子2名（佐藤3尉・富田1士）、女子3名（内田3曹・鈴木3曹・矢野士長）の合計5名がナショナルチームに選出され、11月のアジア選手権大会の出場権を獲得した。



**陸士長
矢野佑歩**



**男子団体
準優勝
自衛隊体育学校B**

2等海曹 **菅沼宏太** 3等陸曹 **藤田竜大** 3等陸曹 **松原琉将**